

令和５年度 第３回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和５年１２月１日（金）午前１０時～
場 所 蒲都市役所 北棟集会室

１ 開会

事務局より、配布資料の確認、会議について説明。

２ 議題

(１) 協働まちづくり事業について

事務局より、まちづくり助成金事業、協働モデル事業、協働まちづくり指針推進事業について説明。

<まちづくり助成金事業見直しについて>

・これまでも見直しに関して議論を行ってきたが、従来より踏み込まれた内容だと思う。はじめの一步部門では、思い立ってから審査を経て動き出すまでに時間がかかっていたが、一方で、チャレンジ助成金は短いスパンで動き出すことができるため、思いがつながりやすいと感じていた。見直しにより、チャレンジしやすい環境への動きが出てくることも期待できる。備品購入についても、具体の検討ができるため、一歩進んだと思う。

・備品購入費については、備品の範囲や金額について、慎重に議論する必要がある。

→次回の会議で募集要項案を提示し、議論いただく予定。

・備品については、複数の団体で共有できる方法や貸出など、シェアできる仕組みについても検討が必要だと思う。

・次年度は制度の発信、アクセスの仕方に工夫をしてほしい。

<協働モデル事業について>

・福祉施設との協働事業について、授業終了後も学生と福祉施設が関わっていることが分かった。提案されたPOPが施設のイベントで使用されていたり、施設製作品の販売などに対する大学との協力など、つながりが生まれている。

<協働まちづくり指針推進事業について>

・指針２では賀詞交歓会の発展、指針３では家族会議ルームやライフスタイルサポートブックの検討を進めている。

・若者議会では防災について、指針ワーキングでは介護について取り上げられており、若い世代がこれらの課題に興味を持ち、光が当たることはありがたいと感じている。

・若い世代は、防災やヤングケアラーなど様々な問題意識をもっており、新たなつながりや活動へつなげていけるとよい。

- ・賀詞交歓会というやり方もよいが、定例的に、月1回など、緩やかにつながる機会をまちづくりセンターで作っていくことはできないか。
- ・賀詞交歓会などでは、団体の紹介ではなく、どういう人がやっているのか、人を見せていくことが大事であり、見せ方を工夫することで新たなつながりが生まれる。

(2) がまごおりまちづくり賞の推薦について

事務局より説明。推薦書の提出は、「葵みつば会」「小江まちカフェ」「山友会」の3件。今年度の受賞者は「小江まちカフェ」で決定された。

- ・これまでの実績を評価するだけでなく、これからの可能性やまちづくりへの意識も考慮して評価する必要がある。
- ・葵みつば会は、設立が新しく、コロナ渦にチャレンジしている活動であり、これからの可能性も期待できる。一方で、他の2団体と比べると実績の面で、もう少し後でもよいのではないか。
- ・山友会は、様々な分野に発展する可能性がある活動で、これからの可能性も期待できる。一方で、サークル的な活動にも見え、もう少し今後の展開を見ていきたい。
- ・山友会は、資金調達の動きとして、観光協会との連携も模索しており、展開を見ていきたい。
- ・小江まちカフェは、社会的状況を確認しながら様々な取組みにチャレンジしており、実績は十分かと思う。また、これから子ども食堂もやっていこうとのことであり、今後の取組みを応援するという面で時期的にも良いのではないか。
- ・小江まちカフェは、地域、学校、公民館と3者の動きを盛り上げようとしてくれており、その点も評価できる。

(3) 令和6年度協働モデル事業について

<担い手を「探す」「見つける」「増やす」「育てる」続く仕組みづくり>

- ・竹島の俊成園で行われるイベントについて、継続して毎年やっているイベントは少なく、これからイベントを主催したい人たちが、主催したことがある人たちと意見交換や相談できる場があるとよいと感じている。
- ・個人をキーとして、団体やイベントが背景にある感じでつながる機会が必要。
- ・「やってみたい」「関わってみたい」「企画してみたい」と思ったときや、「どう進めたらいい」「どうつなげたらいい」など、分からないことを知る場が必要。
- ・青年会議所のイベントでは、多世代の700名が交流する良いイベントになったが、その後の発展に繋げることが難しいと感じた。
- ・イベントでは、開催前の準備段階での「影の担い手」の存在が大切であり、そのような人と繋がる機会があると良い。

<蒲郡在住の外国人に対する持続可能な日本語学習サポート体制の強化と構築>

- ・蒲郡国際交流協会多文化共生部会が運営している「日本語教室」について、学習者であった若い世代が次の世代を育成する体制を作りたい。
- ・外国人住民が多い形原地区と三谷地区にも日本語教室を新設したい。

- ・地域のイベントへ参加して、地域における外国人住民との交流や、企業との連携も図れると良い。
- ・国の政策でも日本語教育が変遷している状況であり、また協働モデル事業での多文化共生ワーキングの動きもあるため、関連した取組みとして考えられると良い。
- ・日本語教育だけでなく、母国の言葉や文化を学び合う日常的な交流の場があっても良い。

3 その他

今年度の会議予定について

- ・第4回 令和6年2月19日（月）午前10時～